



# 日本植物分類学会 ニュースレター

No. 28

Feb. 2008

## 目 次

初島先生ご逝去のお知らせ.....	2
諸報告.....	2
第2回日本植物分類学会論文賞の決定.....	2
第7回日本植物分類学会賞(学会賞・奨励賞)受賞者の決定.....	3
2007年度日本植物分類学会講演会の報告.....	4
講演会に参加して.....	5
庶務報告(2007年11月~2008年1月).....	5
2007年度第2回メール評議員会議事抄録.....	6
お知らせ.....	6
2008年度総会における審議事項.....	6
日本植物分類学会第7回大会公開シンポジウムのお知らせ.....	11
評議員会開催のお知らせ.....	12
寄稿.....	13
国際栽培植物分類学会の設立大会と国際栽培植物命名規約改正会議について.....	13
いきもの便り.....	14
ヤガテマタ すみれ咲ク野ニ 出ズル日々.....	14
シダ植物の Heart.....	15
会員消息.....	16

## 初島住彦先生ご逝去のお知らせ

会長 邑田仁

本会名誉会員、初島住彦先生は2008年1月22日、101歳で逝去されました。ここに謹んでお知らせいたします。

初島先生は九州大学農学部林学科のご卒業で、鹿児島大学農学部教授、琉球大学理工学部教授を歴任され、退職後も多くの研究成果を発表されました。特に南日本から東南アジアにかけての植物の分類学的研究に多大な貢献がありました。先生のご冥福をお祈り申し上げます。

## 諸報告

### 第2回日本植物分類学会論文賞の決定

論文賞選考委員会委員長 岡田博

当委員会は平成19年度に発行された英文誌「APG」58巻1, 2/3号と昨年度に発行された57巻3号, そして和文誌「分類」7巻1, 2号に収録された論文をもとに論文賞を選考しました。57巻3号の収録論文は発行がやや遅れたために昨年度の選考対象に出来ませんでしたので、今年度の選考対象に加えました。選考手順は昨年度と同様に行いました(詳細はニュースレター24号7ページをご覧ください)。

その結果、平成19年度の最も優秀な論文として以下の2編が選ばれました。

①受賞者：高野 温子 氏 (兵庫県立人と自然の博物館), 永益 英敏 氏 (京都大学総合博物館)

受賞論文：APG 58 (1) : 19-32

Takano, A. & H. Nagamasu: *Myxochlamys* (Zingiberaceae), a new genus from Borneo.

受賞理由：東南アジア湿潤熱帯での調査で発見した植物を形態に基づき新分類群とし、その帰属を分子系統学的解析によって明らかにしたもので、ショウガ科の分類学にとって重要な貢献をし、伝統的な分類学・形態学と分子系統学とを総合した考察が高く評価された。

②受賞者：山路 弘樹 氏 (東北大学・ツムラ中央研究所), 福田 達也 氏 (高知大学), 横山 潤 氏 (東北大学), Pak, Jae-Hong 氏 (Kyung-Pook National University), Zhou, Chang-Zheng 氏 (Beijing University of Chinese Medicine), Yang, Chun-Shu 氏 (Beijing University of Chinese Medicine), 諸田 隆 氏 (ツムラ中央研究所), 牧 雅之 氏 (東北大学)

受賞論文：APG 58 (2/3) : 87-96

Yamaji H., T. Fukuda, J. Yokoyama, J-H. Pak, C-Z. Zhou, C-S. Yang, T. Morota & M. Maki: Hybridization and chloroplast captures in *Asarum* sect. *Asiasarum* (Aristolochiaceae) documented by chloroplast DNA sequence.

受賞理由：ウスバサイシン類で従来とは異なる、塩基配列を詳細に読む手法で雑種形成による複雑な網状進化の可能性を明らかにし、本節における分類体系の構築とその考察が行われている点を評価した。

## 第7回日本植物分類学会賞（学会賞・奨励賞）受賞者の決定

学会賞選考委員会委員長 西田 治文

学会賞は、推薦があった8名の候補者について学会賞選考委員会において協議した結果、下記の2名が受賞者に決定しました。奨励賞は優れた研究業績をあげた将来有望な研究者（学生を含む）を顕彰するために、平成19（2007）年度から授賞することになった賞です。奨励賞候補者として5名が推薦されましたが、下記の1名の方が受賞者に決定しました。両賞についての授賞理由は以下の通りです。

### 学会賞

加藤 雅啓 氏（国立科学博物館植物研究部長・筑波実験植物園園長）

津軽 俊介 氏（大本花明山植物園）

### 奨励賞

大村 嘉人 氏（国立環境研究所・NIES ポストドクトラルフェロー）

加藤雅啓氏は、我が国及びアジアを主としたシダ植物の分類学的研究に始まり、藻類から被子植物にまでわたる広範な研究対象について、幅広い生物学的視野から研究を展開されています。多数の原著論文に加え、数多の邦文専門書、啓蒙書、解説などを通じて専門家以外に対しても分類学の重要性や科学としてのあり方、将来像などを提示してこられました。さらに、旧日本植物分類学会と植物分類地理学会との合併による現日本植物分類学会の設立と発展に会長として計り知れない貢献をされ、また、国際植物分類学会（IAPT）大会の日本開催において主導的役割を果たされました。昨年度の論文賞受賞者でもあり、現在でも旺盛な研究・指導・啓蒙活動を続けておられることから、顕彰が遅きに失した感があります。

津軽俊介氏は、村田源氏に師事し、関西地方を中心とする日本の植物相を解明するために精力的な標本収集を行うと共に、ブラジルなど海外でも調査をされました。多数の実生標本を製作されたことも特筆に値します。さらに、これらの標本を保管するため、大本花明山植物園植物標本庫の建設に向け大きな貢献をされたことも大きな評価を得ています。

大村嘉人氏は、地衣体あるいは地衣菌そのものの形態的・生理的形質に着目してきた従来の地衣類分類に対し、共生藻類の種や系統と共生過程の進化的意義などについても考察を拡大した研究を展開されています。共生藻や共生に関わる形質に着目して形態や生理的性質を調べることで、地衣類の系統分類に新たな方向性を提示し、DGGE法という独自の微細藻類解析方法も開発されており、地衣類研究への将来にわたる貢献が期待されます。

今回の選考過程では、募集期間に応募が皆無でしたが、選考委員会での追加推薦手続き開始が委員長の不手際で遅延したため、十分な数の候補者に基づく選考ができませんでした。この点を深くお詫び申し上げますと共に、会員各位には、賞の趣旨を再確認いただき、次年度の募集に際しましては積極的な応募と推薦をお願いいたします。また、募集の開始時期を含め、選考過程につきましても改善策を本年度委員間で立案させていただきたく所存です。

## 2007 年度日本植物分類学会講演会の報告

講演会担当委員 布施 静香

7 回目の日本植物分類学会講演会が 2007 年 12 月 15 日（土）に兵庫県立人と自然の博物館で開催されました。今回は、Flora of Japan という大きなテーマのもと、『Flora of Japan（講談社）』に執筆された方の中から 8 名の先生方にご講演いただきました。120 名を超す参加者（内、学会員は 84 名）があり、盛大な講演会になりました。

岩槻 邦男（兵庫県立人と自然の博物館）：Flora of Japan を地球規模で考える

邑田 仁（東京大学大学院理学系研究科附属植物園）：日本産ツチトリモチ科とホンゴウソウ科の広域分布性

副島 顕子（大阪府立大学理学部）：Aster & Menispermaceae — 分類学者の迷いと後悔 —

門田 裕一（国立科学博物館植物研究部）：日本産キンボウゲ科に関する分類学的研究の現状

田村 実（大阪市立大学大学院理学研究科）：日本のユリ科の分類 — 特にアマドコロ属の分類の改訂を中心にして —

横田 昌嗣（琉球大学理学部海洋自然科学科）：ラン科

勝山 輝男（神奈川県立生命の星・地球博物館）：スゲ属植物最近の話題

大場 秀章（東京大学総合研究博物館）：地球規模での多様性解析からみた日本の植物相 — アブラナ科，オトギリソウ科，アカバナ科を例に —

岩槻先生は、ツェンベリーから現在までの日本植物誌の歴史、地球植物誌計画の流れ、アジアの植物誌進捗状況の紹介、GBIF の考え方と取組み等についてお話しされ、また『日本の野生植物（シダ）』で驚異的なスピードで生態写真が収集できた背景にはシダの会の優れたネットワークの存在が大きかったことを紹介されました。邑田先生は、出会うこと自体が難しい植物群であるにもかかわらず美しい写真で植物を紹介され、今回採用された分類群の認識の判断基準となる形質をまとめて紹介されました。副島先生には、いかにシオン属の分類が困難であるかを再認識させていただきました。また、執筆後に判明した新事実等も紹介されました。門田先生は、『Flora of Japan』にこっそり記載されたというホクリクサボタンの詳細などをお話しされました。田村先生は、従来の分類からの変更が特に大きかったアマドコロ属を中心にその分類に至った根拠を詳しくお話しされました。横田先生は、近年行われた属の細分化などにより今回ラン科では大幅な属の変更が必要だったことを紹介されました。勝山先生は、『原色日本植物図鑑』以降に判明したカヤツリグサ科の日本新産種、最近記載された種、未記載種、忘れ去られてきた種、未だ難解なグループについて紹介されました。大場先生は、『Flora of Japan』の編集方針についてお話しされました。そして、国外研究者に執筆していただいた分類群を詳しく紹介されました。

ご多忙中にも関わらず快くご講演を引き受けてくださった上、大変興味深いお話をして下さった 8 名の演者、遠方より足をお運びくださった参加者の皆様、そして会場準備等様々な仕事を分担して下さった、人と自然の博物館スタッフに感謝いたします。

## 講演会に参加して

福田 知子 (兵庫県立人と自然の博物館)

毎年行われている植物分類学会講演会の中でも、今回の会は Flora of Japan という特別なテーマのせいか出席者約 130 人という盛況ぶりであった。各先生のお話は個性に溢れ、それぞれの分類群に対する執筆中・執筆後の思い入れが伝わってきた。

植物は国境では区切れないという。分類学者なら県境や日本・外国を問わず、その分類群全体を知らないといけないという。冒頭に講演された岩槻先生、最後の大場先生の両編者のお話には、世界の中で日本の植物をどうとらえるかという見方が、当然のように底辺を流れているのを感じた。

実際の話で分類が大変そうだったのは、横田先生のラン科である。日本より南に分布の中心がある分類群が多い中、琉球列島の種をどう扱うかについては、いろいろ迷うことが多いだろうと思った。また、種・亜種レベルで変異の大きい副島先生の *Aster*、調べるほど形態等の地理的差異が明らかになっていく門田先生のキンボウゲ科の話からは、分類の難しさを感じるとともに、分類は様々な性質の分類群とその分類群を理解して分類する専門家があってはじめて成り立つものであり、すべての分類を一律に決められる基準などないのだとあらためて感じた。

新鮮だったのは、大場先生の話にあった、外国の専門家に Flora of Japan を書いてもら

うという試みである。その分類群の世界全体を視野に入れている人からみて、日本のフローラはどう見えるだろうか？ キタダケナズナとシロウマナズナを同種に含めるという Alshehbaz 氏の考え方が面白かった。別々の山で遺伝的・形態的に違うことが明らかなものでも同種にまとめるというのは、その属全体と種のレベルをイメージし、各種を属内に体系的に位置づけるという視点があってこそできる、分類学者ならではの決断ではないかと思うのである。

今回の講演会は、いろいろな科・属の形質や分類上の問題点、先生方の考え方に接することができ、分類について考えるありがたい機会だった。年に一度はこういう会に参加して、自分の萎えがちな研究への意欲をかきたてたいと思う。来年の講演会はどんなテーマになるか楽しみである。



講演会の様子。(撮影：高橋 晃)

## 庶務報告 (2007 年 11 月～2008 年 1 月)

庶務幹事 五百川 裕

庶務報告では学会が交わした契約、転載許可、連絡、行った会議などで、ニュースレターの他の記事で紹介されていないものをお知らせしています。

- ・学術著作権協会からの依頼により、複写許諾権委託著作物英文名の報告を行った(12月3日)。
- ・学術著作権協会に対して「文献提供機関による限定的電子化許諾に関する代理委任契約」の更新手続きを行った(12月19日)。
- ・本会名誉会員の初島住彦氏葬儀にあたり供花および会長名の弔電を送った(1月22日)。

## 2007 年度第 2 回メール評議員会議事抄録

庶務幹事 五百川 裕

2007 年 12 月 19 ～ 28 日に 2007 年度第 2 回メール評議員会が開催されましたので、議事抄録を報告します。この会議は会計決算案と予算案、事業報告案と事業計画案を評議員の方々に審議していただき、総会までの会務・会計執行の指針を得るためのものです。なお、本ニュースレターでお知らせする、3 月 20 日の評議員会と 22 日の総会に提案される議案には、その後の推移を反映した最低限の修正が加えられている箇所がありますことを、ご了承ください。

開催日時：2007 年 12 月 19 日～28 日 12：00

開催方法：電子メール等の媒体を用いた会議

参加者：評議員全員

議長選出

慣例に従い邑田仁氏を議長とすることに反対はなかった。

審議事項

第 1 号議案 2007 年度決算案

第 2 号議案 2008 年度予算案

第 3 号議案 2007 年度事業報告案・2008 年度事業計画案

審議結果

第 1 ～ 3 号議案は承認 10、非承認 0、白票 3 で、承認された。

議事録署名人として黒沢高秀氏と野崎久義氏が選出された。

## お知らせ

### 2008 年度総会における審議事項

庶務幹事 五百川 裕

3 月 22 日に開催される総会において、以下の議案が審議されます。会員各位の参加をお願いいたします。

- (1) 2007 年度事業報告案 (6 ページ参照)
- (2) 2007 年度決算報告案 (8 ページ参照)
- (3) 2008 年度事業計画案 (9 ページ参照)
- (4) 2008 年度予算案 (10 ページ参照)
- (5) その他

#### 2007 年度事業報告 (案)

##### (1) 集会等の開催

・学術集会、講演会、研修会

年次学術集会(日本植物分類学会第 6 回大会)を新潟大学で開催した(3 月 14 ～ 17 日)(ニュースレター No. 25 で報告)。

2007 年度野外研修会を岡山県西部阿哲地域で開催した (5 月 26, 27 日) (ニュースレター No. 26 で報告)。

2007 年度講演会を兵庫県立人と自然の博物館で開催した (12 月 15 日) (4 ページ参照)。

## ・ 総会, 評議員会

年次総会を年次学術集会に合わせて開催した(3月16日)(ニュースレター No. 25 で報告)。  
評議員会を2回(ニュースレター No. 25, 27 で報告), メール評議員会を2回(ニュースレター No. 25 で報告, 6 ページ参照)開催した。

## (2) 出版物の刊行

## ・ 学会誌の発行

英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第57巻3号, 第58巻1-3号(第58巻, 2,3号は合併号のため計3冊)を発行した。

和文誌『分類[日本植物分類学会誌]』第7巻1-2号(計2冊)を発行した。

- ・ ニュースレター『日本植物分類学会ニュースレター』24-27号(計4冊)を発行した。
- ・ 『国際植物命名規約(ウィーン規約)2006日本語版』を出版した。

## (3) 委員会活動

- ・ 絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会(8月に環境省から第二次見直しレッドリスト発表)
- ・ 絶滅危惧植物・移入植物専門第二委員会(8月に環境省から第二次見直しレッドリスト発表)
- ・ 植物データベース専門委員会(日本産植物和名・学名辞書作成継続)
- ・ 学会賞選考委員会(3ページ参照)
- ・ 大会発表賞選考委員会(3月に発足, ニュースレター No. 25 で報告)
- ・ 論文賞選考委員会(2ページ参照)
- ・ 国際植物命名規約邦訳委員会(12月にウィーン規約日本語版の出版完了)

## (4) 表彰

- ・ 第6回日本植物分類学会賞(学会賞・奨励賞)の授与を行なった(ニュースレター No. 24 で報告)。
- ・ 日本植物分類学会第6回大会発表賞の授与を行なった(ニュースレター No. 25 で報告)。
- ・ 第1回日本植物分類学会論文賞の授与を行なった(ニュースレター No. 24 で報告)。

## (5) 国内外の関係学術団体との連携・協力

- ・ 学会連合等への参加・連携を行なった: 日本学術会議, 植物分類学関連学会連絡会, 自然史学会連合, 日本分類学会連合。
- ・ 以下のシンポジウムの開催に協力した。日本分類学会連合共催シンポジウム「"生物の一生=生活環"の多様性を比較しよう」(2007年1月8日, 東京学芸大学), 植物分類学関連学会連絡会共催シンポジウム「第四紀における日本フロラの成立過程~Refugiaはどこに?~」(2007年9月8日, 東京理科大学), 自然史学会連合講演会「いきもの・ひと・みずの自然史」(2007年11月25日, 滋賀県立琵琶湖博物館)。

## (6) その他

- ・ 学会刊行物のバックナンバー等を販売した。
- ・ 植物分類学関連情報(学術集会, 研究動向, 出版物, 公募)を収集し, ニュースレター, ホームページ等で提供した。
- ・ 学会刊行物の国内外の研究機関への寄贈と交換を行なった。
- ・ 植物分類学マニュアルの編集(継続)。

## 2007 年度決算報告 (案) (2008. 1. 11 現在)

収入の部	単価	数	2007 年度予算	2007 年度決算	予算との差異
会費					
一般会員	5000	800	4000000	4036240	△ 36240
学生会員	3000	75	225000	241600	△ 16600
団体会員	8000	30	240000	232000	8000
別刷り (APG)				23900	△ 23900 注 1
バックナンバー販売			100000	254205	△ 154205
利息			20	2140	△ 2120
雑収入			50000	98901	△ 48901 注 2
小計			4615020	4888986	△ 273966
繰越金			7983737	7983737	0
合計			12598757	12872723	△ 273966

支出の部	単価	数	2007 年度予算	2007 年度決算	予算との差異
大会補助費			100000	100000	0
講演会補助費			30000	29376	624
出版物印刷費					
APG (57(3) -58(1-3)) 印刷費	700000	4	2800000	948687	1851313 注 3
和文誌印刷費 (7(1-2))	500000	2	1000000	1105650	△ 105650
NL24-27 印刷費	70000	4	280000	265475	14525
英文校閲費			120000	114209	5791
出版物送料					
APG 送料	110	4000	440000	234975	205025 注 3
和文誌送料	145	2000	290000	145465	144535
NL 送料	110	2000	220000	130525	89475 注 4
会議費			330000	251960	78040
学会賞賞金・表彰経費	30000	2	60000	60000	0
自然史学会連合負担金			20000	20000	0
分類学会連合負担金			10000	10000	0
事務費					
消耗品費			50000	54852	△ 4852
アルバイト賃金 (発送代行料を含む)			180000	167112	12888
封筒等印刷費			300000	203385	96615
通信費 (小包手数料を含む)			200000	141860	58140
手数料・その他			20000	23885	3885 注 5
自動振替集金代行基本料			3150	3150	0
自動振替口座確認手数料	177	120	21240	21168	72
予備費			200000	15750	184250 注 6
小計			6674390	4047484	2626906
次年度への繰越			5924367	8825239	△ 2900872
合計			12598757	12872723	△ 273966

注 1 : 2005 年度以前請求の別刷り代金

注 2 : 著作権使用料 41,215 円、絵はがき販売 16,650 円など

注 3 : APG 58(2,3) 出版遅れにより印刷費の支払いは 2008 年度へ繰り越し

注 4 : NL24 は「分類」7(1)と、NL26 は分類 7(2)と同時発送

注 5 : 振込手数料、インターネットバンキング手数料など

注 6 : 献花代

## 特別会計 2007 年度決算

収入	2007 年度予算	2007 年度決算	予算との差異
前年度繰越金	2013027	2013027	0
国際植物命名規約邦訳販売収入	0	10000	△ 10000
利息	0	0	0
合計	2013027	2023027	△ 10000

支出	2007 年度予算	2007 年度決算	予算との差異
国際植物命名規約邦訳出版費	1200000	1321932	△ 121932 注 1
次年度への繰越金	813027	701095	111932
合計	2013027	2013027	0

注 1 : 印刷費の高騰と印刷部数増による



## 2008 年度事業計画 (案)

## (1) 集会等の開催

- ・ 学術集会, 講演会, 研修会  
年次学術集会(日本植物分類学会第7回大会:首都大学東京(3月20~23日))を開催する。  
2008年度講演会を開催する。  
2008年度野外研修会を開催する。
- ・ 総会, 評議員会  
年次総会を年次学術集会に合わせて開催する(3月22日)。  
評議員会を開催する(3月20日)。

## (2) 出版物の刊行

- ・ 学会誌の発行  
英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第59巻1-3号(計3冊)を発行する。  
和文誌『分類[日本植物分類学会誌]』第8巻1-2号(計2冊)を発行する。
- ・ ニュースレター『日本植物分類学会ニュースレター』28-31号(計4冊)を発行する。

## (3) 委員会活動

以下の委員会を組織し, 目的に沿って活動する。

- ・ 絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会
- ・ 絶滅危惧植物・移入植物専門第二委員会
- ・ 植物データベース専門委員会
- ・ 学会賞選考委員会
- ・ 大会発表賞選考委員会
- ・ 論文賞選考委員会

## (4) 表彰

- ・ 第7回日本植物分類学会賞(学会賞・奨励賞)の授与を行なう。
- ・ 日本植物分類学会第7回大会発表賞の授与を行なう。
- ・ 第2回日本植物分類学会論文賞の授与を行なう。

## (5) 国内外の関係学術団体との連携・協力

- ・ 国内学会連合等への参加・連携を行なう: 日本学術会議, 植物分類学関連学会連絡会, 自然史学会連合, 日本分類学会連合など。
- ・ 韓国および中国の植物分類学会と連携し, 連合国際シンポジウムを開催する。

## (6) その他

- ・ 学会刊行物のバックナンバー等の販売を行う。
- ・ 植物分類学関連情報(学術集会, 研究動向, 出版物, 公募)を収集し, ニュースレター, ホームページ等で提供する。
- ・ 学会刊行物の国内外の研究機関への寄贈と交換をする。
- ・ 植物分類学マニュアルの編集を継続する。
- ・ 学会メーリングリストを創設し, 情報提供の迅速化を図る。
- ・ 海外からの会費および学会誌購読料のクレジットカード払いシステムの導入に向け検討する。

## 2008 年度予算 (案)

収入の部	単価	数	2008 年度予算	前年度予算との差異
会費				
一般会員	5000	810	4050000	50000
学生会員	3000	80	240000	15000
団体会員	8000	25	200000	△ 40000
バックナンバー販売			100000	0
利息			20	0
雑収入			50000	0
小計			4640020	25000
繰越金			8825239	841502
合計			13465259	866502

支出の部	単価	数	2008 年度予算	前年度予算との差異
大会補助費			100000	0
講演会補助費			30000	0
出版物印刷費				
APG (58 (2,3), 59 (1-3)) 印刷費	700000	4	2800000	0 注 1
和文誌印刷費 (8 (1-2))	550000	2	1100000	100000 注 2
NL28-31 印刷費	70000	4	280000	0
英文校閲費			120000	0
出版物送料				
APG 送料	110	3000	330000	△ 110000
和文誌送料	145	2000	290000	0
NL 送料	110	2000	220000	0
会議費			130000	△ 200000 注 3
学会賞賛金			70000	10000 注 4
自然史学会連合員担金			20000	0
分類学会連合分担金			10000	0
事務費				
消耗品費			50000	0
アルバイト賃金 (発送代行料を含む)			180000	0
封筒等印刷費			50000	△ 250000 注 5
通信費 (小包手数料を含む)			200000	0
手数料・その他			20000	0
自動振替集金代行基本料			3150	0
自動振替口座確認手数料	182	120	21840	600 注 6
レンタルサーバ使用料			15000	15000 注 7
予備費			200000	0
小計			6239990	△ 434400
次年度への繰越			7225269	1300902
合計			13465259	866502

注 1 : APG 58 (2,3) 出版遅れにより印刷費を 2008 年度に支払い

注 2 : 学会賞賛賞人数の増加に伴って, 受賞講演原稿が増加しているため

注 3 : 昨年度支出した命名規約邦訳委員会の会議費が不要のため

注 4 : 受賞数 (学会賞 3 万円 × 2 名, 奨励賞 1 万円 × 1 名) の違いに伴うもの

注 5 : 事務局移転年度以外のため 5 万円とする

注 6 : 自動振替利用会員の増加に伴うもの

注 7 : 学会公式メーリングリスト創設のため

## 特別会計 2008 年度予算 (案)

収入	2008 年度予算	前年度予算との差異
前年度繰越金	701095	△ 1311932
国際植物命名規約邦訳販売収入	1400000	1400000 注 1
利息	0	0
合計	2101095	88068

支出	2008 年度予算	前年度予算との差異
国際植物命名規約邦訳販売予備費	100000	100000 注 2
次年度への繰越金	2001095	1300000
合計	2101095	88068

注 1 : 700 部程度販売の場合 (セントルイス規約邦訳販売収入は 1,247,008 円)

注 2 : 送料が不足した場合などに使用する

## 日本植物分類学会第7回大会公開シンポジウムのお知らせ

公開シンポジウム世話人 村上 哲明

日本植物分類学会第7回大会において以下のような公開シンポジウムを首都大学東京（牧野標本館50周年記念事業）との共催で開催いたします。公開シンポジウムは、参加費無料です。皆様、ふるってご参加下さい。また、周りの日本植物分類学会会員でない方々にも宣伝していただくと幸いです。

[テーマ] 牧野富太郎博士の植物研究とその継承

[日時] 2008年3月23日（日）午後1時30分～4時30分

[会場] 首都大学東京 南大沢キャンパス6号館（110教室）

[プログラム]

### 1. 大場 秀章 「牧野植物学と植物画」

明治維新は教育研究に重大な改革をもたらした。大学での教育研究体制を整えた矢田部良吉・松村任三らや、独自に植物学への関心を強めていった牧野富太郎がともに目指したのは、日本植物相の分類学研究である。牧野の分類学研究にはいくつかの特色があり、「牧野植物学」と名付けられよう。牧野の植物画にはマキシモヴィッチの影響をみてとることができるが、画作のための詳細な観察は牧野植物学の形成にも大きな影響を及ぼしている。

### 2. 田中 伸幸 「牧野博士の行動録～編纂の経緯と今後の課題～」

牧野富太郎博士の業績の一つは全国規模に渡る精力的な標本採集活動に基づく研究である。採集活動の一つの資料としての「牧野博士植物採集行動録」を編纂するに至った経緯を貴重な牧野博士の遺品資料などもお見せしながら紹介し、今後取り組まなければならない課題について考える。

### 3. 菅原 敬 「牧野博士も研究したカンアオイ類～その奇妙な花と繁殖～」

多くの日本新産植物を発見し、記載してきた牧野富太郎博士であるが、カンアオイ類についても数種を記載している。その代表は多摩丘陵に分布するタマノカンアオイである。落ち葉に半ば埋もれた花には、博士自身も驚かれたことと思うが、その送粉や繁殖に秘められた謎についての研究成果を紹介したい。

### 4. 畔上 能力 「アマチュア植物研究者による植物研究の展開」

多摩丘陵や高尾山周辺の地域フローラについてのこれまでの調査による研究成果、そして同地域フローラの特徴を述べるとともに、いくつかの興味深い植物種の分布の変遷や盛衰、希少植物種の保全への取り組みなどを紹介する。

### 5. 邑田 仁 「マムシグサとテンナンショウ～牧野図鑑の歴史を振り返って～」

オオマムシグサ、コウライテンナンショウなど日本に30種類以上があるマムシグサ類の分類は多くの学者によって手がけられてきた。しかし何がマムシグサかということすらまだ明らかになってはいない。牧野博士がとらえたマムシグサはどんなものだったか、牧野図鑑を手がかりに振り返ってみる。

## 評議員会開催のお知らせ

庶務幹事 五百川 裕

日本植物分類学会第7回大会（於：首都大学東京南大沢キャンパス）の開催に合わせ、下記の通り評議員会を開催します。評議員、幹事会等の関係各位の出席をお願いいたします。

日時： 2008年3月20日（木、祝）16時～19時

会場： 首都大学東京・牧野標本館（南大沢キャンパス内）

詳細は関係各位において連絡いたしますが、今回の評議員会においては、総会における審議事項と同様の内容が審議される他、名誉会員の選出について等の審議が予定されております。審議事項についてご意見、ご希望がございましたら、評議員、会長、幹事、委員長のいずれかにお伝えください。

### 国際植物命名規約（ウィーン規約）2006 [日本語版] 発売中！

B5判 上製本 1部 2,500円（送料込み）

次の事項を記入の上、Faxまたはe-mailでお申込下さい。

1. 氏名, 2. 送付先郵便番号, 3. 送付先住所, 4. 電話番号,  
5. FAX番号, 6. e-mailアドレス, 7. 必要部数, 8. 公費  
支払をご希望の方は必要書類と通数（例：見積書, 請求書,  
納品書各1通）, 宛名（例：\*\*大学理学部）などの情報。

（申込先および問合せ先）：

〒112-0001 東京都文京区白山3-7-1 東京大学大学院  
理学系研究科附属植物園 東馬 哲雄, Fax 03-3814-0139,  
e-mail: nomen2006@ns.bg.s.u-tokyo.ac.jp

支払方法：日本語版に同封して発送する郵便振替用紙で  
送金下さい。



### 編集後のひとこと

みなさん会費納入はお済みですか？ 4年以上滞納されている方は2月末までの会費納入がない場合、3月の大会時に開催される評議員会の議決を経て、除名になってしまいます。自他共に認める鬼の会計幹事を怒らせる前に、納入を済ませた方が得策のようです。

鬼といえば、2月3日の節分はみなさん厄除けなどしましたか？ 我が家では、容赦なく私にぶつけられた落花生を我先にと拾って食べる子供たちを後目に、かみさんは一人で黙々と恵方巻をほおぼっておりました。

By 編集人

## 寄稿

国際栽培植物分類学会の設立大会と  
国際栽培植物命名規約改正会議について

池谷 祐幸（農研機構果樹研究所）

2007年10月にオランダのワーゲニンゲンで開催された第5回国際栽培植物分類学シンポジウム (ISTCP2007) の期間中に行われた国際栽培植物分類学会 (International Association for Cultivated Plant Taxonomy; IACPT) の設立大会と、続いて行われた国際栽培植物命名規約 (International Code of Nomenclature for Cultivated Plants; ICNCP) の改正会議に参加した。IACPT はニュースレター 22 号でも紹介したが、設立総会の開催と役員等の選出により学会活動の開始に至った。本学会の目的を簡単に表現すれば IAPT の栽培植物版であり、まず ICNCP に関する事業を現在の委員会から引き継ぐ方向である。また学術誌の刊行については、英国王立園芸協会 (RHS) から発行されている『*Hanburyana*』を当学会が引き継ぐ方向である。当学会の活動はこれからのものがほとんどのため、各事業の専門委員会を作って検討するとともに、会員数拡大のための広報活動を積極的に進めていくこととなっ

た。詳細については学会のウェブサイト ([www.iacpt.net](http://www.iacpt.net)) を見ていただきたい。

ICNCP の改正会議はワーゲニンゲン大学の植物園で行われた。ICBN とは全く異なり、参加者は ICNCP 委員の 18 名に限られた小規模な会議である。国際園芸学会 (ISHS) のウェブサイト で 5 月までに公募した改正案を RHS にある事務局で整理していたが、各委員に配布されたのは会議の半月前であった。準備時間が殆どないから会議中に改正案を成文化するのは困難だろうと想像していたとおりで、会議は、改正案について提案者が説明し討議を経て一定の方向が出たところで委員長 (C. Brickell) がまとめ、最終的な成文案は委員長と事務局による編集委員会が後日作成する、という形で進行した。ただし採決が行われたものも 2 件あったが、うち 1 件は ICBN の形容語を繰り返して品種形容語としてはならないという Art. 19.18 についてであった。これは現規約で初めて勧告から条項になったのだが、今回の否決により次規約からはまた勧告に戻るようになった。

私は初参加（日本人としても 1980 年規約以来）であったが、国際規約を改正するためには余り整備されていない会議である、と思わざるを得なかった。しかし今後は IACPT の発展と平行して会議のあり方も変わってくると思う。また、これまで英米圏中心に運営されてきた ICNCP 委員会に、今回は東アジア（日中）からも参画・改正案の提案があり、ICBN と異なり全ての現代語が対象となるため今後一層複雑になることが想定される ICNCP が、より厳密に整備されていくことが期待される。



ICNCP 改正会議の風景。手前中央は K. Ettekoven (IACPT 会長)。その頭上の 1 人右が委員長の C. Brickell。筆者 (Ettekoven の左) の奥にいるのは J. McNeill。日曜日で暖房がなく薄寒い部屋を暖めるため、各人の机の前でキャンドルが燃えているのが分かるだろうか。(撮影: H. Glen)

## いきもの便り

## ヤガテマタ すみれ咲ク野ニ 出ズル日々

須山 知香 (金沢大学)

私は出歩けばいつも、気になる植物に会うのです。そのほとんどは、家に帰って図鑑を見たり、詳しい方々に聞けば、「へえ、なるほど〜」となります。また近頃はとても便利で、必要になった各国のフロラやメジャーな年代物の文献は、大抵インターネット上で閲覧できちゃいます。そして、関連文献を揃えて読めば、頭の中で先賢諸氏と、時や国や身分を超えたバーチャル談義も可能。

この、素敵な植物探索の刺激は、習慣性のある快楽物質を脳内に分泌しているのでしょうか。ですから、調べても調べても、自分が見た‘謎な植物’を納得できない場合、やがて大変な事態になってしまうのです。

ここ数年来、気にしている‘タチツボスミレの仲間’が、そうなのです。2年前に学位取得の為のマツムシソウ仕事が一段落し、植物仲間から良く質問されることもあり、これらの観察を自分に解禁しました。すると、系統や起源の謎、それを受けた分類学的取扱いの問題、そして閉鎖花という繁殖システムがこの仲間にはどう効いているのか等々、興味深い切り口が、沢山見えて来はじめたのです。



悩みながらのサンプリング (撮影：植田 邦彦)

「あの植物は変！ コレも気になる！」と、騒ぐ私を、いつもは諷める研究室のボスもタチツボスミレ類には予てより御関心が高く(種間分子系統樹作成済みだった)、観察にゴーサインが出てしまいました。また、私が二十歳を幾分過ぎただけの頃、スミレ研究の先達&呑み友達である植物写真家I氏に、「植物の分類に関しては、生きて野にある時のみ得られる情報がある！ スミレの仲間なんて本当にそうだよ！ 例えばね、(以下、面白いけど略)」と、熱く語られてしまったことも、発端の一因で…



開放花由来(左)と閉鎖花由来(右)の果実。一旦わかれば、成る程と思う。(撮影：須山 知香)

場所・時期・相手をかえて見て歩き、昨年末には、ダンボール5箱の採集標本、全国各種数千枚の写真をつまみに、I氏と「終日耐久・すみれ酒(種)話会」なるものを決行。現時点までに得た SSRs や交雑実験等のラボ・データも加味した議論の成果として、この仲間についての「解らない点が判った」所です。

また春が来れば、例の物質に支配された私は、いそいそと野山へ出かけてしまうのでしょうか。道端に座り込み、「ほお〜っ、これは何!？」などと叫ぶ私を見かけられましたら、是非お声を掛けて下さいませ。

## シダ植物の Heart

角川（谷田辺）洋子（国立科学博物館）

一日中実験室の中で過ごすにはあまりにも良い天気だったので、Eさん達3人とお弁当を片手に宍塚大池に出かけた。宍塚大池は筑波実験植物園から車で15分くらいのところにある。以前農業用のため池として使われていたらしいが、周囲にはハイキングにちょうど良い里山が広がっている。「前葉体を見つけるためにはコケの視点で探さないとダメなんですよ。」Eさんが散策路脇の少し土が剥き出しになったところで、かわいいハート型の前葉体を指した。11月も後半で、落葉性のシダは枯れ始めているが、1センチ近くに育った前葉体は元気そう。何の前葉体かはわからないが、このまま冬を過ごすのか、それとも晴れて受精して孢子体を形成するのが気になる。前葉体のフェノロジーなど、ほとんどわかっていないのだから。



ヤシャゼンマイ。京都・保津峡において孢子を採集して作成した自配受精個体。（撮影：鶴沢 美穂子）

私が国立科学博物館・植物研究部に来た時には既にシダ植物の研究者が4人、コケ植物の研究者が2人いた。他人のことは言えないが、よくもまあ、こんなに地味好きの人がそろったものである。しかし、そのお陰でシダ談義やシダ植物とコケ植物の比較の話題には事欠かない。正直なところ、私自身は野外で前葉体をまじめに探したことなどなかったので、「コケの視点で」というのには妙に納得してしまった。コケを採集したことがある人に言わせると、前葉体は結構見つかるらしい。実は私自身も前葉体とは馴染み深いのだが、野外で孢子を集めて培地上に播いて実験材料とするのが専門である。長い時間、培地上の前葉体を相手にしていると、夜、夢の中に緑のハートがたくさん出てくることもある。同じ培地でも、ちょっと湿度が高すぎるとリボン状のように伸びて綺麗なハート型にならなかったり、密度が高すぎると造精器ばかりをつけて造卵器をつけなかったりと結構気まぐれで、人工交配実験などをするときには条件設定に手間取ったりもする。しかし、いざ受精を行うときには、ハート型の前葉体から非常に可愛い精子が泳ぎ出してくるのにお目にかかることができる。巻貝のような形に繊毛が沢山生えていて、くるくると回りながら動き回る。初めて見る人はきっと驚くだろうと思うぐらいの速さで動き回る。無事に造卵器にたどり着いて受精が成功すると、3週間から1ヵ月後には、造卵器がプックリと膨れて第一葉が伸びてくる。どんなシダ植物でも葉が小さいうちは本当に可愛い。大きくなった孢子体を観るよりずっといいかも。

ニュースレターへの情報提供、寄稿大歓迎です。ご連絡は下記まで。

東 隆行 〒060-0003 札幌市中央区北3条西8 北海道大学植物園

TEL: 011-221-0066 FAX: 011-221-0664 e-mail: azuma@fsc.hokudai.ac.jp